



# うみすずめ Vol.15

日本ウミスズメ類研究会 ( Japan Alcid Society ) 会報 1997年9月8日発行

## JAS Information

日本ウミスズメ類研究会では、今年の日本鳥学会において、つぎのような自由集会を開催いたします。申し込みは不要です。お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。当日参加できない方で、発表要旨 ( 9月21日分のみ ) をご希望の方は、190円切手同封の上、研究会事務局までお願いします ( 〒078-41 北海道苫前郡羽幌町北6条1丁目 北海道海鳥センター内 Tel.01646-9-2080、Fax.01646-9-2090、メール kojiono@gol.com )。

1997年度日本鳥学会大会自由集会

### 『ナホトカ号重油流出事故と海鳥』

日時 / 1997年9月19日 ( 金 ) 18 : 30 ~ 20 : 30

場所 / 新潟大学農学部 293室

主催 / 日本ウミスズメ類研究会

後援 / ( 財 ) 日本財団

企画の概要 /

1997年早々、ロシア船籍のタンカー " ナホトカ号 " の船体は2つに折れ、そこから多量の重油が冬の日本海に流出した。海岸は真っ黒な油に覆われ、見るも無惨な光景が広がった。海鳥の死が初めて報じられたのは1月8日のことである。漂着する海鳥の数はそれから激増し、これまで1300羽以上が保護、もしくは死体として回収された。

今回の事故では、実際に漂着した傷病鳥の多さもあって、かなりの鳥関係者が動いた。しかし、突発的なことだっただけに、各団体・個人の対応が必ずしも協調していたとは言えない面もある。

この自由集会では、実際に現場にかかわった方々に演者として話してもらい、ナホトカ号事故の残した " 課題 " についても、意見を交わしたい。

また、調査手法そのものの問題、そして鳥学的な問題についても明らかにしたい。

内容 /

1. はじめに ( 集会主旨説明 )
2. 油汚染の海鳥への影響評価と対策 : おもにEXXON VALDEZ事故を例として ( 北海道大学農学部・綿貫 豊 )
3. ナホトカ号重油流出事故と海鳥
  - 3-1. 石川県での海鳥被害と事故の対応について ( 鴨池観察館・大畑孝二 )
  - 3-2. 京都府での海鳥被害と事故の対応について ( 冠島調査研究会・須川 恒 )
  - 3-3. ディスカッション ( 今回の事故の対応の問題点について )
4. 鳥学上の問題と課題 ( ディスカッション )
5. 総合討論 ( ディスカッション )

司会進行...武石全慈 ( 北九州市立自然史博物館 )

1997年度日本鳥学会大会自由集会

『油流出による野生生物への被害防止体制の確立を目指して』  
アメリカに学ぶダメージアセスメント  
(野生生物への被害規模調査)

日時 / 1997年9月21日(日) 17:00~19:30

場所 / 新潟大学農学部 A会場

主催 / 日本ウミスズメ類研究会、

(財)日本野鳥の会、

(財)世界自然保護基金日本委員会(WWF-Japan)

後援 / (財)日本財団

企画の概要 /

97年1月に発生した日本海重油流出事故では、多くの海鳥を中心とした野生生物への被害が起こった。これに対応し、O B I C油汚染海鳥被害委員会が、日本ウミスズメ類研究会や日本野鳥の会などにより結成され、被害個体の回収のため環境庁や都道府県、関係機関との調整をはかった。一方、現場では日本野鳥の会の支部などが、被害個体の回収と汚染規模の調査を行っている。また環境庁は、(財)日本鳥類保護連盟に委託をし、ナホトカ号油流出事故による海鳥類への影響に関する調査の実施と検討委員会を開催している。

また、5月14日には対馬沖で、7月2日には東京湾で大きな規模の油流出事故が発生し、関係者が対応している。

これらの現状をふまえ、調査活動の現状を把握し共有するため、どのような調査活動が誰により行われたのかと、その活動の結果を集積する。さらに調査活動の目的が、ダメージアセスメント(野生生物への被害規模の推定)であったことを確認し、目的達成のためにやるべきではあったが、できなかった活動も確認する。

そして今後の油流出事故に備えるため、ダメージアセスメント実施体制確立の検討と、より効果的な被害防止策を取ることができるよう、アメリカなどで行われているセンシティブエリアを特定し地図化することを検討する。

内容 /

1. 主催者あいさつ
2. アメリカ合衆国連邦政府の油流出対策法制度とN G Oの役割  
(東邦大学 ジョン=フリーズ)
3. 日本海重油流出事故におけるO B I Cの海鳥被害調査  
(北海道海鳥センター・日本ウミスズメ類研究会 小野宏治)
4. 日本海重油流出事故における京都北部海岸域の海鳥保護調査活動体制  
(冠鳥調査研究会・日本野鳥の会京都支部 須川恒)
5. 東京湾原油流出事故における野生生物被害防止体制  
(日本野鳥の会 古南幸弘)
6. 日本海重油流出事故による鳥類への影響調査について  
(環境庁鳥獣保護業務室 水谷知生)
7. 海洋環境に関する国際条約  
(日本雁を保護する会 竹下信雄)
8. ディスカッション
  - 8-1. 今後の日本でのダメージアセスメントのあり方
  - 8-2. 国内のセンシティブエリアの特定に向けて

司会進行...東梅貞義(WWF-Japan)